



どのような未来を目指すための事業か

土砂災害リスクを軽減するため

防護柵と法枠をつくります

地元の声

・ 人家や避難所を守るために、早急に対策をしてほしい (地元住民)

事業前

◆ 斜面が急であるため、大雨等でがけ崩れが発生するおそれがあります。



事業前の状況

事業後

◆ 防護柵をつくることにより、落石や崩落した土砂を受け止め、がけ崩れによる被害のリスクを軽減します。

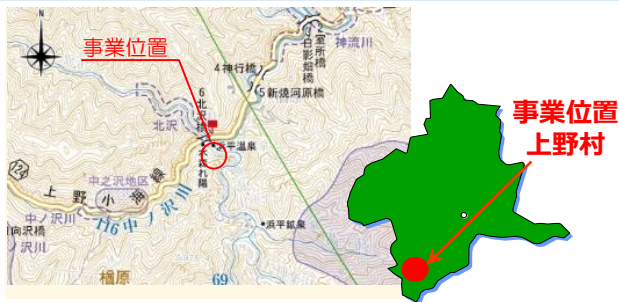


事業後のイメージ (一例)

事業の概要

- 事業箇所：上野村檜原
- 事業内容：防護柵工 延長92m・法枠工
- 事業期間：令和3年度～

※法枠 (のりわく) とは、コンクリートなどで格子状の枠を設けて、斜面の風化、浸食、崩落などを防止するものです。



事業の進捗状況 (令和6年3月末現在)



事業のすすみ具合



今、何をしているか

令和6年度も、引き続き斜面对策工事を実施します。

